



# 墨東の学び

## 母校である墨東特別支援学校卒業生であることを誇りに！

今、学び修めた皆さんに「卒業証書」を授けました。飛び立つこの時に際し、特別授業「墨東学」を贈ります。

### 1時間目は「日本史」の時間です。

日本史を通して日本の特別支援教育の歩みと本校の成り立ちを学びましょう。

江戸幕府を開いた徳川家康は、江戸城と城下町に必要な塩等の生活物資を千葉から短時間で安心して運べるように、旧中川から墨田川の間を、海に出ずに直線でつなぐ運河を小名木四郎兵衛に命じて作らせたそうです。多くの物資が運べるので大変栄えました。本校も小名木川に面していますが、本校の場所には当時、関ヶ原の戦いや水軍で知られる九鬼家の下屋敷があり、今も古地図に記されています。ちょうど校庭のブランコ回りからではないでしょうか、屋敷から川に大きく張り出した五本松が見事で徳川吉宗公も感嘆されたそうです。歌川広重の江戸名所百景に描かれたり、松尾芭蕉もこのほとりで俳句を詠まれたりするなど、歴史にその名が刻まれています。そう、皆さんの学び舎は歴史に育まれた地に建っているのです。

さて、時代が大きく進み、明治維新後、水運の便利なこの付近には、渋沢栄一によるガス工場やセメント工場、あるいは砂糖を作る製糖工場等が並ぶ工業地域に発展しました。

話はさらに広がりますが、歴史は必ずつながります。明治の終わりの頃、帝大（今の東京大学）医学部で日本初の整形外科教室を興した田代義徳教授と高木憲次教授が、体の不自由な子を連れた親子が診察に来たことをきっかけに、治療とリハビリ、教育、職業訓練を一体的に行う機関が必要だと痛感されました。その信念は、現都議会につながる東京市議会の応援を得て、日本初の公立肢体不自由教育学校を昭和7年に港区麻布の小学校跡に開校させるに至ったのです。この日本初の「東京市立光明学校」には全国から希望者が殺到しました。その後、世田谷に移転し、現在の都立光明学園に発展しています。

残念ながら、本校周辺地域に通える肢体不自由教育を行う学校ができるには、更に29年を要しました。昭和36年、江戸川の小岩に現在の鹿本学園の前身の学校が開校してからです。この間、我が子に肢体不自由児のための専門教育を

受けさせたいと願った親達がありました。昭和26年頃の光明学校在籍者名簿には千代田区・中央区・台東区・墨田区・江東区に住む小中学生14名が掲載されています。毎日親が背負って満員電車を乗継いで世田谷まで送り迎えしていた子が何人もいたとの話も伝わっています。昭和36年、江戸川に都立肢体不自由校が開校してからは、墨東地域からもスクールバスで通えるようになりました。しかしながら、当時は交通渋滞が酷く、大幅に遅れることが頻繁だったそうです。我が子に1時間目からしっかりと学ばせたいと願った保護者達は、この墨東地域にも車いすの子供が学べる学校があればと願って動かれました。そうした声を聞き、都議会議員など多くの方が力を尽くしてくださり、昭和62年、遂に本校が開校したのです。今も都議会議員や地域の皆様が熱心に本校を応援してくださるのは、こうした歴史の積み重ねがあるからなのです。

また、病院に入院して病氣と闘いながら学ぶ子供たちの教育を先進的に行ってきたのも本校の誇りある歴史です。平成3年、国立がんセンターでの訪問教育を開始し、現在では、東部療育センターでの教育や各病院での訪問教育も担っています。

体の不自由な子供や病氣と闘う子供たちのために、多くの人の熱意で成立した母校史に誇りを抱いてください。

### 2時間目は特設科目「建築学」の時間です。

40年近く前に完成した本校舎設計には、「夢のある学校にしよう」との思いが込められています。当時、初となる「扇型に張り出したガラス張りのサンルーム」「全開放型の屋上プール」、今も地域に響き渡るカリヨンの塔や時計台…。校歌にも歌われるカリヨンの音は、外で遊ぶ子供たちに帰宅を知らせる夕方の時報として、この地で育った方々には大事な思い出だそうです。初代の星川校長先生は、墨東生が心を一つにできる「音楽」が大切であると考え、「カリヨンなどの音響設備に力を入れた」と語られています。皆で作ったウェルカムフラッグや墨東タペストリーで伝統の校舎を飾ったのは皆さんの力です。夢のある校舎で学んだ思い出はずっと記憶に残ることでしょう。

### 3時間目は「ホームルーム」の時間です。

卒業後の新世界に飛び込んで夢中で過ごしている中で、

急に母校が懐かしく思える時があることでしょう。そうした時、懐かしの校舎で、先生方や旧知の友と再会して、近況を伝え合える機会があります。本校では先輩たちが「同窓会カリヨン」を立ち上げて、学校を会場に生涯学習にもつながる楽しい催しをしています。ぜひ参加してみてください。

#### **4時間目は「進路学習」の時間です。**

皆さんは多くの人々の愛を受けて大切に生まれ、体力を養い、健康を維持しながら、日々の学びを積み上げ、門出の節目を迎えています。一人一人は誰にも代わることのできない尊い存在です。この学校で同じ志の墨東生と学び合ったこと、多くの人々との絆を得たこと、学校生活で得た知恵と勇気を駆使して、人生の本舞台に登壇してください。そして墨東卒業生であることを一生の誇りとしてください。最初で最後の校長先生からの授業を終わります。

卒業を祝します。前途に一層の幸あれ！

#### **東京慈恵会医科大学 医師免許取得プログラム受講生の学び**

大学から御礼状と共に学生8名の受講レポートを掲載した冊子が届きました。一部を紹介します。「実習の終盤に校長講話があり、障害児を診察するには、鋭い観察眼を有する医師でないと務まらないとの言葉に教室で実際に児童の反応を掴み取る難しさを体感していたので身に沁みだ。教職員や医療従事者は障害全般に対する様々な知識をもつ一方で、保護者は、我が子に特化した知見をもたれていると仰っていた。実態が個々に異なる障害児医療では、保護者の信頼を得て多くの情報を引き出せる力量と人間性が不可欠とも。以上の事から臨床現場において誠実に対応するとともに、常日ごろから医学に対して真摯に向き合う必要性を痛感。」

#### **聖路加国際大 養護教諭養成プログラム受講者の学び**

先日、養護教諭免許の取得を目指す20名の学生が本校での教職実践演習を終え、御礼状と共に受講レポートが大学から届きました。一部を紹介します。「習得すべき生活スキルを丁寧なスモールステップで身に付けられるように工夫していることを実感できたのが収穫！」「教員が刻むスモールステップは小さいように感じたが、1年間の積み重ねで大きな成長につながることをビデオで見させていただき、実感！」「追視の学習では、教材から視線が外れかけても、叱るなどの否定語で注意するのではなく、ちらりとでも見た瞬間を捉えて「良く見たね！」「よく見られたね！」「よく見ているね！」と瞬時に肯定的評価を伝え、望ましい動作を心情面からも定着させていくプロの言葉掛けの質に驚愕した」。それぞれ、深い学びがあったことが読み取れます。

養護教諭は、採用選考合格後には、小・中・高・特の各校種に配属されます。いつの日か特別支援学校に着任され、こ

の実習での学びを発展させてくれることを願っています。

#### **お茶の水女子大学 栄養教諭取得希望者の学び**

同大学生生活科学部食物栄養学科4年生が本校での1日見学をしました。栄養士からの説明を基本に、厨房での給食調理、形態食対応、配膳、給食時間の教職員による摂食指導の実際をつぶさに把握するプログラムです。受講レポート6枚から一部を紹介します。「特別支援学校の給食の役割の一つは、『食べることを知る、食べる楽しみを知る』を実感。そのためにも摂食機能向上が不可欠。教職員はきめ細かく指導介助をして口唇機能の向上などを促していることを知った。」「初・中期形態食は、自分の先入観と異なり、風味豊かで美味しかった。美味しくなるように栄養士と調理員が厨房で大変努力されている様子を見られたのが収穫。」

栄養士を志す学生が、教職課程での学びを加えて修めることで、栄養教諭教員免許が取得できます。教員採用となれば、栄養士業務とともに教員の立場で、食育に関する指導を学校全体で進めるリーダー的役割も担います。

#### **転出・退職教職員の在校生向け離任式を限定配信！**

3月20日朝、都教育委員会ホームページまたは東京新聞等主要新聞紙上で教職員人事異動一覧が公表される見込みです。学校では3月25日の終業式に引き続き、転出・退職する教職員紹介と挨拶・感謝で構成する離任式を行います。この様子は、小・中・高の卒業生も御覧になれるように、以下のような配信を計画しています。

#### **離任式の配信予定**

期間：3/26(水)9時～3/31(月)16時  
案内：準備ができ次第、さくら連絡網でお知らせ

#### **さくら連絡網、クラッシー、チームズの運用が月末で終了**

卒業された高等部3年生の御家庭で使っていただいていた「さくら連絡網、クラッシー、チームズ」等については、3月31日16時頃を目途に運用終了となります。この間、学校への連絡に御利用いただき、ありがとうございました。

#### **「墨東の学び」「墨東の橋」2年間の御愛読に感謝！**

S・B2部門・3学部・2分教室、2種の訪問学級、多岐にわたる本校の結び目となるように、校長自らが執筆して参りました学校通信も今月で最終号となります。

振り返れば、16年前に校長着任日から書き始め、学校通信約250回、保護者通信約50回を数えるに至りました。学校教育の責任者として、時に即して直に保護者様にお伝えしたいとの思いを込めて書き続けて参りました。拙い文面であったと反省しきりです。御愛読に感謝いたします！

学校通信 主筆 田村 康二郎